

六月一日（土）晴 暑

発信 家、 畑 政五郎様 へ

興亜奉公日、

一日として汗の出ない日はない本当に暑いよ

三菱銀行蒲田支店へ 現金をとりに行く、通知預金証書を置いてくる、一人で行く、今日から岡崎さんと金子君が現場に行く事となりました。一ヶ月らしいです。

岡崎さんの代わりに十時さんがこられました。

早く帰る、風呂に行く上り湯なく湯は非常に不潔だ、帰って来て顔を洗い直す

「六月より 一生懸命 勉強せよ」

体重 十四貫二百匁

欄外の記事

風薫る羽織は襟もつくろはず（芭蕉）

日比谷公園開く（明治３６）日米海底電線竣工（明治３９）立憲民政党成る（昭和２）

六月二日（日） 雨後晴 暑

ああ、雨だ、

羽田で相撲号の献納式を見に行かうと思ってゐたが駄目だ、市橋君に手紙を出したから十時に来る筈だ停車場に九時半出かける一時間程待つも来ない、あきらめて戻る、帰るころには大分晴れて来た。雨もやみ暑くなって来た、帰って見るとラジオで相撲号の献納式典を中断して居ました、ああ行けばよかった、

午後、新興館に行く 大した人混みであった、二十ちではあったが暑くて入ふる息気ぶんぶんである活動で初めてこんなに汗をかいた实际いやになりました。

太平洋行進曲外三ツありました。

夕食後 駅の方に出てカラーを買ふ白木屋を見るラジオを聞いて十時すぎ就寝、

欄外の記事

遥かならんを欲する勿れ（孔子）

本能寺の変（天正１０） 尾形光琳没（享保元）

六月三日 （月） 晴 暑

定期券の紛失と思ったらズボンのポケットにあった青くなって探す实际驚いた それは大川日清駅であった朝、充分なる注意が必要だ、

大空の様な心もて ひがみこん情を起すな、
明朗たれ、愉快になれ、そして精一杯何事も講義あり 師より後れて室に入る、これは絶
対にいけない事である 注意必要
残業八時まで 九時家にかへる
坂倉さんより名古屋のおみやげいただく
屋代さんより 松島みやげ いただく 謝る
十時半 就寝

欄外の記事

荒鷲の勇士は機をば低くして手うちふりつつ東に飛びぬ（古川謙三）
ペルリ浦賀に来る（嘉永6）我軍尼港占領（大正9）板垣将軍陸相就任（昭和13）

六月四日 （火） 晴 暑

受信 畑 政寿 様

金子君の現場に行ったのでその代りの仕事即ち、庶務事項に就いて特に購買請求に対し代
理人となる、

感じた点

先づ何事も充分に考へて実行をなす、
引込思案にならぬ事、聞くは一時の恥、知らぬは一生の恥、之だ。
何事も積極的に後誤りたる事を知ればその原因の追及なし改むべし、
六時半帰家、
風呂に行く、満員なり、見事なものだ。
ラジオを聞く 九時床に就く、これから手紙を書かう、政寿さんへ

欄外の記事

白煙を吹きつつ雲の中を落つるソ聯機に一齐に拍手沸きたり（岡村辰彦）
伝教大師寂（弘仁13）東京天文台設置（明治21）近衛内閣成る（昭和12）

六月五日 （水） 晴後雨 暖

発信 畑 政寿 様

山本君の欠勤に仕事が思ふ様に出来ず転古舞の形であつた。出納事務に対しては非常に困
りました。

感じた事

先づ無駄使ひをせぬ事、特に紙の不足に対し無駄使ひをするのは非国民である
中ね技師第二回目講義体座炉暖房機械に就いて
残って残務整理して七時退社す、

ラジオを聞いて寝る

欄外の記事

春蟬が鳴き青葉しんと（武定巨口）

皇后陛下戦傷将兵に包帯御下賜の御沙汰（昭和14）

六月六日（木） 晴 暑

特別記事 節句

発信 家

受信 家より 政寿さんより 三瓶先生より

今日は一日中水が断水せずに出て居ましたそうです。三菱銀行蒲田支店へ出張、
此頃は仕事が多くて非常に愉快です、習字御清書提出、どうもうまく行かないのです。

家へかえると政寿さん訪ねて来て居られました、
わざわざ家から送って来たつの巻だと言ってくれて行かれた、会った時には本当に嬉しか
った又感謝せずには居れません、話をして九時半送って行く駅前明治にてフルーツポンチ
をおごって戴く、十時わかれて日曜会ふ筈です、

十時半 ねる

つの巻 十ヶ食ふ

欄外の記事

岩見のや高角山の木の間よりわが振る袖を妹見つらむか（柿本人麿）

コルネーユ生（1606）袁世凱没（大正5）堅陣開封完全占領（昭和13）

六月七日（金） 晴曇 暑

発信 市橋さんへ 受信 小包 市橋

ネムイネムイだ

食べすぎた様だ

太郎吉同案所問題解決、

支払明細を今度から各支店へ出す事、

購入帳の締切をなす

五時半退社、

家から小包が来た、その中にはリックサック 訓練服 ゆかた 半ズボン

市橋君より日曜くる手紙ありたつが半達 速達にてことわり土曜日上野にて会ふ旨書く、
十一時 ねる

欄外の記事

千の仮定は一の真理を作らず（伊國俚諺）

木食上人寂（享保3）仏女流作家ジョルジュ・サンド没（1872）

六月八日（土）曇 暖

土曜日である、今日は振替仕訳を多くやりました。金子さんが休暇で休みでありました。

非常に愉快であった、終って上野にて市橋君と会ふ。

山崎君の処へ電話をかけて呼ぶも親戚の家へ行つて駄目であった。

上野をぶらぶら歩いて夕食を食べ乍ら話をして八時半別れる

勤儉預金五円也引出す

十時半 寝る

欄外の記事

薫風や遠見の鷺の皆白く（戸澤撲天鵬）

独美術研究所ヴィンケルマン没（1768）

六月九日（日）晴 暑

特別記事 天皇陛下 関西上幸

八時半 出かける日劇の前へ、途中御召列車を拝す、九時半行く健ちゃん待つてゐる、九時四十五分政寿さんくる皆んな揃つて東宝四階劇場の午前中子供の四季を見る、三越本店にて昼食をなす、それから小石川へ行き氷入蜜豆を食べる、

植物園へ行き朝鮮人が色々競技をしてゐた。政寿さんの下宿へ行く、風呂に行き、夕食を御馳走になり七時帰る、三人で銀座を歩き森永にてフルーツポンチを食べ九時有楽町駅にて分かれる。永瀬さんのお母さん故郷へ行く、十時の列車にて

欄外の記事

落日に支那のラムプのほやを拭く（赤黄男）

ベートル大帝生（1672）米国日露の講和を勧告す（明治38）

六月十日（月）晴 暑

選挙投票日、而し吾れ停年に達せず、眠いよ昨日の疲れで鶴田さん明日より休暇にて田舎へ行く、今週一杯。

買入先五月末残りを出す、締切日なり、約五十万近くなる、

講義、阿部技師鉦山機械に就いて七時半まで八時半家に帰る、

井上さんより湯河原みやげ戴く昼当番にて部屋に残る、屋代さん休む、

早く三瓶先生へ手紙を書かねばならぬ、

欄外の記事

針ほどのことを棒（古諺）

大江廣元没（喜禄元）陸軍士官学校成る（明治11）拓務省設置（昭和4）

六月十一日（火） 晴 暑

鶴田さん 休暇

一日中 請求書の計算

五時、すぐ帰る 大森にて石川君と本屋に入る

僕は 便箋 及 封筒を買ふ 金三十銭也

家に帰る夕食をなす 新聞を見て姉さん風呂にゆく眠くて思はず横になって寝てしまふ

それから二階に上って蒲団を敷いて就寝、

実際 僕の生活は之だからいけない

若い時は一生懸命何事もやらねばならむ

欄外の記事

ぼうたんも今は花なし青風（梓月）

壘政治家メッテルニヒ没（1859）

六月十二日（水） 晴 暑

特別記事 三瓶政吉先生 召集解除

講義 検査 阿部技師より鉦山機械に就いてどうも講義とか何かに対してあきて来た様な気がする、勉強する気分を失ひて来たようではないか、

僕はどうも凡て一時的である、それに対し忍耐もせずあきらねる事が多い、又ひねくれて考える事が多い、凡てやって見る馬鹿にされた気でやって見るこれだ、そこに向上あり、進歩があるのであり、為さねば凡て駄目である。

昨日から入梅である 雨の降るところじゃない毎日暑くて暑くて実際わしや困るよ、

欄外の記事

朝鮮へ六月の海わたりけり（白水郎）

江戸大洪水（天明6）赤軍八巨頭銃殺（昭和12）

六月 十三日（木） 晴 暑

支払準備 一日中かかる、何時も支払へより丁度一日遅れました、
習字、展望 安危 初陣 練習
七時四十分 家に帰る 三瓶先生より応召解除の報承る先生へ手紙出す為に十一時迄かかる

今頃 緊張味が欠けてきた様であるぐずぐずしてゐる事が多いししっかりやろうぜ

欄外の記事

青駒の足掻を速み雲居にぞ妹があたりを過ぎて来にけり（柿本人麿）
明智光秀誅さる（天正10）リュシコフ縛・安慶占領（昭和13）

六月十四日 （金） 晴 暑

発信 三瓶先生へ

会計の部屋に入ると午前中はむろの中に入った様だ、日はかんかん照りつけてむっとする明るくてよいが暑い。こんな暑い時も十時半頃までで照る日もそれてくると涼しい風が吹いて来て何とも言われぬよい処となります。

今日はどうも気が落ち着かず心配が多かった日です。漸く小切手が出来たのは十時過ぎ振込みが遅れるのではないかと考えた午前中三菱銀行蒲田支店へ行く、午後二三の支店が取り立てにくるも小切手打って置かなかった為怒って帰った支店もあった。

小切手を打たないと言うのは失敗であった。そこには会社の事情が入っている、鶴田さんお帰りになる

四時頃来られる、

おみやげにせんべいを頂く

五時半退社、この頃は食欲がへってきました。本屋による、六時半すぎ家に帰る

欄外の記事

山に来れば山巖かに恋熟る（碧雲居）
毛利元就没（元亀二）ヘーベル博士没（1923）天津英仏租界隔絶（昭和14）

六月十六日 （土） 晴 暑

晴れたり雲つたりの天気、しかし熱い。土曜日は嬉しい、のだが、何だか憂鬱な日だった。三菱銀行蒲田支店へ出張、庶務係より謄写版をかりて来て送金案内書を作るどうもうまくゆかなかった。

先づ上役の人より頼まれた仕事は早くやる自分の仕事があってもそれより先にやる、これだ、私は今迄返事はよいがどうも遅いそれから仕事をよく聞くと云ふ事をしないが初めは

っきり聞いてそれをよくのみこんでやる事、それから二度からは忘れないで間違いなくやる。

三時退社 夕食後 留守番 九時半 寝る

欄外の記事

食えどもその味を知らず（中庸）

鈴木春信没（明和7）川上眉山自殺（明治41）

六月十六日 （日） 晴 暑

七時半まで寝てゐる、ゆっくりおきて 着物をきるも暑くて暑くてかなわんでシャツ一枚になる、

午前中はぼんやりとすぎる、〇時半昼食をして後ラジオ傷病兵慰問名古屋病院より中継の歌謡曲を聞いて一時半出掛ける 横浜へ行く（十五銭）駅より少し歩くも疲れたので市電にて（七銭）伊勢崎町へ行く、非常ににぎやかな処である、野沢屋デパートへ入る、人は黒山の様である、三時半朝日ニュース館にてニュースを見る 二十二銭也

五時出る後桜木町より鶴見まで十五銭 帰る

わかもと買ふ一円三十銭也、家に帰ると永瀬君のお母さん田舎より帰ってこられる、丁度八日間です、

風呂へ行く、竹の子で夕食、ラジオを聞いて九時半床につく今日からかやを吊って戴く

欄外の記事

迷はんよりは問へ（伊国俚諺）

河村瑞軒没（元禄12）常陸丸遭難（明治37）十三代森田勘彌没（昭和7）

六月十七日 （月） 雨 暖

ふと目がさめるとまだ夜中の二時頃であつた、雨はしとしととふつてゐたまた何時のまにか夢の国へ入ってしまひました。六時半おきるとまだ雨はふつて居ました入梅になって最初の雨です、ひとつこうもりが欲しい今度月給戴いたら買ほふ小さなこうもりをさして行く雨が少し強いのでズボンが濡れた漸く会社へ八時一寸前につきました。旅費の請求七十銭也、送金をなす、西尾さん熱が出て早退 課長さんよりチョーチフスの気味があるから注意する様と言はれた、

講義 レプラントに就いて 天野技師とか言ふ人であまり声が低くわけがわからない、まだ雨が降ってゐる、この雨によって百姓はどんなに喜んだ事であらう

八時帰家 九時 床に就く

欄外の記事

座り松裾ひき松や風薫る（月斗）

版籍奉還（明治2）公郷諸侯を華族と称す（同）

六月十八日 （火）晴 暑

昨日あんなに降った雨がどこへ行ったのであろう雨など降ったのかとしらぬ顔してるすみ切った空本当に現金なものですよ、

仕事はいつも追ひ回されてゐます、幾らやっても少しもへらない、幾らでもある、僕はこうやるのが嬉しい精一杯やろう、

五時半 帰家 深川の兄さんとお叔母さんこられる、そして東海林とか言ふ人がこられてゐたその息子が身体具合が悪いとか言って寝ておられた、

今日は家へ帰って来て見知らぬ人乍り居るのでただぼんやりとしてしまつて何だか心苦しかった

どうしてひがみこん情を起こすのであろう下宿をかえる等としかしこんな事が起こるのも当然かも知れない

久らく東海林の人も泊まってゐるらしいのです。

欄外の記事

世の人よ如何にとわれをおぼすらんもの書きふけり会わぬ許させ（岡本かの子）

ウオーターローの戦（1815）

六月十九日 （水）晴 暑

うう暑いこれが皆んな等しい悲鳴である、

会計の部屋の窓にすだれを張った何だか涼しい様な気がする、明日は賞与がある様な話である、今日は常務が来た、未だ顔を見た事がない、賞与は僕達は駄目だ羨ましいなあー銀行へ金とりに行った様である、

仕訳を主にやる

講義 焼結機に就いて実際よく解らない声が低いので聴こえない有様だ、

七時退社 八時 家

僕の部屋へ昨日からお母さんと二人で寝る事になった、蚊も出て来たうるさいので困るもう寝よう九時半すぎだよ、

欄外の記事

苦しくも降り来る雨が神が埼狭野のわたりに家もあらなくに（長奥麻呂）

始めて年号を定む（大化元）万国郵便連合条約布告（明治10）

六月二十日 （木）晴 暑

朝は晴れてみたがだんだんと曇って来たそして夕方には遂に雨は降って来たそれは一時的であったが九時半頃より雷がなり始めた何だかものすごくなって来た、
今日は仕事が非常に愉快であった、しかし買入先請求書の方が少し多くなってたまって来た様だ、僕の仕事は買入先だおろそかにしてはならない、
ボーナス日である、しかし僕等は見習で分前にあづからない、0時半 所長さんの訓示あり
食堂にて その後みんなは嬉しそうな顔をして所長室から出てくる 吉村さんや小川さん
や岡崎さんは嬉しそうな皆んなの顔をみるのを いとって会計の部屋に集まって不平を言
ってるのは面白かった、
三菱銀行蒲田支店へ出張 午前中
習字、お清書提出 六時半 退社 七時半家につく平山さん（女）おいでになる、それから東海林さんと話して七時寝る

欄外の記事

真実は黄金にまसार（アラビア諺）

徳川吉宗没（宝暦元）フランス大革命（1792）内地台湾無線開始（昭和9）

六月二十一日 （金） 晴 暑

晴れたり曇ったりの天気であった。午前中 振替をなす、新聞で見ると昨夜の落雷にて大蔵省外相当の官署が火災を起し大した騒ぎであったそうです。
一時より宮崎課長さんの講話あり、
見習中の給料その他に就いて又体験談当社の拡張計画等に就いて三時半頃迄会議室にて見習全部僕は会社に道場が起つ事を聞いて嬉しくてたまりません。
今年の秋頃迄には完成、予定なりと、
残業七時迄請求書の整理を行ふ
八時十分帰家 理髪屋に行くそれから風呂に行くこの頃は水が出るのでよい湯に入る事が出来ました。
十時寝る

欄外の記事

ビルディング海壓し並ぶ薫風に（暁村）

星亨刺さる（明治34）陸海軍の精鋭汕頭敵前上陸（昭和14）

六月 二十二日 （土） 晴 暑

しかしゆっくりしてゐたので遅くなるのではないかと思ったので便所にも行かないで出かけるなんだか腹具合が悪かった、

会社にて便所に行くと愈った、
一日中 請求書の計算、残業をなす、八時 帰家。
昼休みにピンポン工員食堂にて行ふ、どうもうまく行かないので困ってしまった、
日誌が十三日間もたまってしまった、月曜日には必ず出さう
どうもずべらになった様だ、
ゆっくり寝よう、明日は日曜だ 映画でも見やう九時だ 寝ようかな

欄外の記事

降り退きて薄日明ると思ふまも池面を見ればなほ雨止まず（片桐顕智）
ノモンハンにてソ連機四十九機撃墜(昭和14)汪兆銘和平再声明（昭和14）

六月二十三日 （日） 晴 暑
発信 家 天寧寺町 二通

僕の気性は何かやろうと思ひ立った場合こんな事やっても無駄であろうか、何かにとか言
ってやらない事が多い、そして後で悔いる事が多いのである、どうも悲観してしまふ向が
多いのである。

凡て何事もやって見る事が必要ではないか、悪い事を知りながら無理に為す事は勿論ない
が、良いと思つた事、勉強しようと思ひ立った事、凡て経験する必要があると思ふ、多い
に本を読むべしどうも一時的でいけない、これは僕の大いなる欠点である。

午後、白木屋劇場にて美しき争ひ、女学生と兵隊日本ニュースを見る、非常によかった。
夕食にうどんを食べる 非常にうまかった。八時になるもまだ静子さんと東海林さんがか
へってこない 九時半 ねよう

欄外の記事

山道に馬のゆきけむひづめのあととめつつ登る児は先にたちて（不二子）
国木田独歩没（明治41）物集高見没（昭和3）帝国芸術院成立（昭和12）

六月二十四日 （月） 晴 暑
あすは給料日今月は少く二十八円程だ、
やっと日誌出す約二週間溜まってしまった。
一日中請求書だ、实际いやになつてしまふ、得意先の方も手を出そうかな、無理にならな
い程度にしかし仕事が山の様にないと悲しくてつまらない、多くあればますますはり切つ
てくる、
今日、家からさくらんぼ送って来たが丁度又政寿さんから頂いた僕の留守中にこられた
そうである本当に困ってしまった。しかしでもくるので早くか遅ければよかったのに、

又明日の帰りは遅くなるし困ってしまったなあ、

下宿屋へ半分程やる

もう十時すぎた早く寝やうよ

物価と統制に就いて 藤田事務

欄外の記事

麦秋や鳥居の内も借り申し（泊雲）

加藤清正没（慶長16）シャム国名タイと改称（昭和14）

六月 二十五日 （火） 晴 暑

発信 政寿さんへ 家へ

午前中、給料を入れる サクランボを会社の人へ持って行くもう一箱余ってゐるので困ってしまつた。給料二十八円〇〇銭を戴く 今月は少ない様だ

七時残業してうめ合せねばならぬ、

宮崎総務課長さんより講義あるも今日は冷やしコーヒーや菓子を出されて課長さんより仕事に対する注意あり、七時退社

下宿屋へ二十円支払ふ

それから風呂へ行く 十時 寝る

欄外の記事

再び考ふるを最良とす（羅句諺）

皇太后陛下御誕生（明治17）高等学校令公布（明治27）

六月二十六日 （水） 曇 暑

六時半起床、朝食後サクランボを持って出る、石川君へあげる、
買入先計算どうしても合わず残業、七時に及ぶもわからず遂に帰る。

昼休みにピンポンを行ふ 非常に面白かつた。

しかし買入先が合わないのにはがっかりした。原因を探すに非常な手段を要するので一人で行っては到底出来ぬ。

来月は現場へ行く事になってゐるがなるべくきまりをつけて行きたいと思ふがどうも仕事
がはかどらないで困つてゐる外の仕事に手をつけるからじゃないかと思ふ。

一生懸命やろう必ず明日は合わせて二十九日には間に合わせるぞよしやるぞ。

もう十時近くなつた寝て又明日早く起きてゆこうよ

欄外の記事

夕晴る馬込谷谷夏来る（白木郎）

杉山検校没（元禄7）内藤湖南没（昭和9）

六月二十七日 （水）雨 暖

雨がしとしと降っている、傘はなし何となく憂鬱だ傘を借りて行くその傘は小さなもので又大正時代流行した様な傘である、こんな文句も不平も出る処じゃないが、久しく我慢しよう。普通に会社へ行ったのであるが金子君の外誰も来ていなかった。買入先昨日に引き続きどうしても合わず色々となやんで見たが一向わかりそうもない、もう一度請求書を調べてみると数字の記帳間違いであった、その時のうれしさはなんとも言ひなかった。

午後 調書を作る

習字 練習

それから残業振込依頼書の作成 八時半かえる

余りおそく帰ると下宿屋に悪い、

九時半家につく

二六会会費を八十銭明日送らう

欄外の記事

青嵐や杉皆動く井の頭（中村楽天）

ボイル湖上空敵機二百と遭遇九十八機撃墜・タムスク急襲（昭和14）

六月二十八日 （金）雨 暖

曇った天気どうもいやな日だ、

仕事は漸く出来たがしかし仕事はまだ沢山あるのに来月と言っても明後日限りで今日は終わりになった、原場行きと来ているどうにかして後始末をつけて行きたいものだ、

来週は鶴田さんは神戸三菱電機へ出張の由

それに今日で小切手は出来てゐない所長は居ない、

実際こまったよ、漸く残業して小切手をつくり上ぐ七時半 退社

井上さん明日休暇の由

八十銭を小為替にて二六會に引受けて送金は明日手紙を書く、深川の女子供くる目を見える様になった。又雨が降ってゐる、どうもはっきりしないよ。

もう十時すぎ 眠い事はそれ程言ひ表せせない

欄外の記事

草原は露けきに茨咲きみて陽出づる前を吾があゆみこし（木寺成太郎）

仏思想家ルソー生（1712）塙洪国皇儲暗殺される世界大戦勃発（1914）

六月二十九日 （土） 曇 暖

特別記事 安全デー

発信 二一六会会費 送付

曇ってゐるので暗うして本当に陰気くさい梅雨の現象であらうレインコートにて出る 皆んなレインコート等着てゐる人が殆どないと言ってよい位である。

どうも今月の支払はうまくゆかず困ってしまった、これと言ふのも完了しない為である、もっとよくしなければいけない、

僕は来月から現場へ行くらしいのでどうも心が落ち着かず又仕事も一きまりつけて行きたいし困ったよ、とにかく落ち着いてやるだけやってみよう、

十時さん兵隊検査の為休み、

鶴田さん 今夜神戸へ出張される、

安全デーの為、身の回りの清掃を行ふ

六時半、帰る、石川君と二人で大森郵便局へ書留を出す、 風呂へ行く

欄外の記事

死するよりも諂らう（へつらう）も惧れよ（ホーマー）

招魂社創立（明治2）ダンチヒ問題悪化（昭和14）

六月三十日 （日） 曇 暖

うす暗くて湿めっぽくて何だか気持の悪い日でありました、一日中この様であった。

午前中は留守居している、

レイ子ちゃんが三日前から来ている、

午後、早目に昼をして出かける、先づ新宿へ一時着く、活動を見やうと思ふて行くも一杯で入れない、

ぶらぶらと歩いて日本刀(岩波文庫)を五十銭で購入、それから市電にて日比谷へ行く東宝四階劇場にてのん気眼鏡を見る、漫画的だ芸術家の生活を描いた面白かった、五時過ぎ、有楽町駅より帰路に着く、実際疲れてくたぐたぐ、

夕食後、直ぐに床に就く、

行く時の電車の中で小川さんに会ふ十時さんは第二乙らしいです、これから日誌を書こう、

欄外の記事

夏の花一つも見えず雷来る（横光利一）

名和長年戦死（延元元）乾岔子島事件（昭和12）関東豪雨大水災（昭和13）